




日本一生徒を大切にする中学校を目指します

いま ここ

教育目標
 「いま」「ここ」でがんばる生徒を育てる
 ◎健康で心豊かな人
 ◎自ら学び実行する人
 ◎協力し合い責任を持つ人



赤信号みんなで渡れば怖くない

校長 茅原 直樹

標題は、映画監督としても有名なタレントのビートたけしさんのかなり古いギャグです。保護者の皆様にはご記憶があるかと思いますが、生徒のみなさんには、初めて聞く人もいるかもしれません。先週行われた交通安全教室でも「信号は、誰が見ていなくても従うことが大切です。仮に車が来ていないと思っても守る必要があります。」というお話がありましたが、そのことをふざけた調子でギャグにしています。ギャグなので笑ってしまえばそれまでですが、ちょっと考えれば、これがどんなに危険なことか分かるはずです。

確かに、自分だけでなく「みんな」でしていると思いついでしまえば、それがよくないことであっても、「ほかにもしている人がいるから大丈夫。」と安心してしまいます。でも、本当にそうでしょうか？

「みんな」で渡っているからといって、赤信号で道路を横断する行為が危険であることに変わりはありません。「ほかのみんなもしているから。」という言い訳は、自分自身の判断力を麻痺させ、罪悪感も希薄にしてしまいます。周りには「みんな」の中には、「危ないな。」と感じていても、その思いを口に出して言えない人が何人もいます。もしも、そういう人のうち一人でも勇気を出して「危ない。」と言えたなら、その危険は回避できます。

「いじめ」も同じです。多くの場合、「いじめ」の加害者は「みんな」で一人の被害者を攻撃します。ですから、罪悪感が希薄になり、判断力も弱くなります。そのため、今自分たちがしていることがいじめだということにすら気づけなくなってしまいます。周りの「みんな」のうちの誰かが勇気を出して「ダメだよ。」「それは、やりすぎだよ。」と言えたなら、その声は、同じ思いの人に届くはずですし、被害者を救うことにもなります。

もし、誰も止めなければ、攻撃はますますエスカレートして止まらなくなる。そして、被害者に大きな心の傷を負わせ、時にはそれがもとで自ら命を絶つまで追い詰めてしまうこともあるのです。

「いじめ」は、時には人の命を奪ってしまう悪質な犯罪にもなるということを絶対に忘れないでください。本校でも、こここのところ複数のいじめが起きています。一人一人が「仲間」を大切にする優しい心をもってほしいと思います。

今月6月は、東京都の「ふれあい（いじめ防止強化）月間」です。裏面に東京都教育委員会が作成したリーフレット「学校みんなが安心して過ごせるようにするために」を添付しますのでご覧ください。



【2020年度東京都「いじめ・自殺防止コンクール」最優秀作品】

【6月の主な行事】（6月10日～30日） ※今後、やむを得ず変更する場合があります。

月	日	曜	学校行事等	月	日	曜	学校行事等
6	10	月	生徒会朝礼	6	17	月	7組(3年)職場実習(～28日)
	11	火	モアレ検診		19	水	授業研究会
	13	木	生徒会専門委員会		23	日	7組(1・2年)連合宿泊学習(～25日)
	15	土	校舎等外装塗装工事 始(～10月)		24	月	第1回定期考査(～26日)

学校 みんなが 安心して過ごせるようにするために



こんなことありませんか

こっそり話したつもり…



ふざけただけ…



思ったことを
書いてだけ…



相手が嫌だと感じたら・・・ それは、**いじめ**です

いじめをしては
いけないと、法律で
決まっているのだね。

いじめを 防ぎ、いじめられた人を守るための 法律があります【いじめ防止対策推進法】



(定義) 第2条 「いじめ」とは、児童等に対して（中略）他の児童が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって（中略）心身の苦痛を感じているものをいう。
(いじめの禁止) 第4条 児童等は、いじめを行ってはならない。 など

いじめで 苦しむ人 ゼロ！あなたから 始めよう！

いじめられそうになったら

- その場から離れよう。
- 相手の目を見ながら「やめて」と言って立ち去ろう。
- 安全な場所に行こう。

だれかがいじめられているのを見たら

- 学校の先生にすぐに相談しよう。
- いじめられている人を支えてあげよう。
- 勇気を出して、いじめを止めよう。

もしもいじめられたら

- いじめから守ってくれる大人（家族や 学校の先生、スクールカウンセラー）に 相談しよう。
- 友達に 相談しよう。
- いじめがなくなるまで、何度でも相談しよう。

あなたがだれかをいじめているとしたら

- すぐにやめよう。
- やめたくても、自分もいじめられるかもしれないといった不安などからやめられないときは、大人（家族や学校の先生）に相談しよう。

必ず
力になります



教育相談一般・東京都いじめ相談ホットライン

0120-53-8288

令和6年5月 東京都教育庁指導部